

Iメイト便り Iメイトって? Internet, 愛, (出)会いのアイ

今回の大地震に驚き、交流を深めてきたIメイトを心配し思いやる温かなメールと、それらに感謝するメールのやり取りは、国や年齢を超えて心を通わせる素晴らしさを感じさせてくれます。これに応えるような復興を全国民が協力して成し遂げたいものと願ってやみません。Iメイトの皆さんの心からの祈りに感謝をこめて。

(タマサート大学Iメイト交流コーディネーター 森郁子)



園田成和さんとウィッチャー ウィジャー(ボート)さん

ボートさん⇒園田さん (2011年3月10日)



今月夏なので、山といっても、暑かったです。でも、宿泊はとてもきれいで、swiss風に建てられました。たくさん写真を撮りました。羊が多くて、羊の食べ物あげて、アーチェリーをして、馬にも登ることができます。

園田さん⇒ボートさん (3月10日)

山で馬に乗るのは楽しいですね。僕も若いころは時々高原や海浜で馬を走らせました。とても爽快(そうかい)でした。今度写真を送ってくれますか?



【日本語教室】

宿泊はとてもきれいで、swiss風に建てられました。→宿はとてもきれいなswiss風の山小屋です。羊が多くて、羊の食べ物をあげて、アーチェリーをして、馬にも登ることができます。→沢山いる羊に餌をやったり、アーチェリーをしたり、馬に乗ったりできました。

ボートさん⇒園田さん (3月12日)

津波があったそうです。家も車も破壊されています。危ないですよ。気をつけてください。死人はもう1000人以上ですか。タイでも津波が起こったことがあります。でも、強さは日本と比べ物にならない。

園田さん⇒ボートさん (3月15日)

今度の東北太平洋沖地震の被害者数(ひがいしゃすう)は時間が経つにしたがってどんどん増えています。既に確認された死者数は2500人、安否(あんび)が確認(かくにん)できない人が17000人にもなっています。(略)

ボートさん⇒園田さん (3月18日)

私は心配していて、Aftershockはまだおこっていますか?今、東京の状況はどうですか?放射性があるかどうか、わかりませんが、まだ安心できません。気をつけてください。大勢のタイ人は日本旅を見合わせますし、東京や東北にかわって関西や九州に行く人もいますそうです。きれいな環境が壊られたのは残念です。もったいない。でも、今、大勢のタイ人はお金や料理などを日本に送ります。これから、頑張ってください。

猪原彰子さんとポーンピモン サイウパラットさん

ポーンピモンさん⇒猪原さん (2011年3月14日)



こんにちは。一昨日は日本で地震が起こって、ニュースを聞いて、心配しました。千葉県はいかがでしょうか。猪原さんは大丈夫ですか。生活はいかがですか。大変ですか。猪原さん、自分で気を付けてください。

猪原さん⇒ポーンピモンさん (3月14日)

地震のお見舞い、ありがとうございます。今回の地震は今までに経験したことのない大きな地震でした。長かったし、結構強い余震が何回も来ました。家に帰ってみると、玄関には下駄箱に入れてあった靴が散乱していました。夫が家に居たのですが、地震の時は部屋中ガタガタ揺られて、花瓶(かびん)が上からガチャーンと落ちて怖かったと言っていました。私の家の辺(あた)りの被害(ひがい)はそんなものですが、東北地方の被災地の被害はひどいですね。テレビで見たいと思いますが、津波のおそろしさを改めて感じました。

スマトラ沖(おき)地震を思い出しますね。今までに起こった地震で、スマトラ沖(マグニチュード9.1)が三番目に大きくて、今回の東日本巨大地震(マグニチュード9.0)が四番目だそうです。こんな地震はもう二度と起こってほしくありません。

さて、困ったことは原発(げんぱつ)の事故が発生し、電力不足が起こり、今日から各地で計画停電を実施(じっし)し始めたことです。被災地のみなさんの苦しみを思えば、一日に2、3時間電気が来なくてもどうと言うことはありませんが、まあ、しばらくの間、耐乏(たいぼう)生活をしなければなりません。

・・・編集後記・・・

東日本大震災の当日に家の引越しをしていました。自然の前の人間の弱さと原子力を飼いならしたと思っていた人間の思い上がりを知りました。身内にも被災者がいましたが多数の被災された方へ思いをいたし、義援金など自分ができることを精一杯しなくてはと思っています。早速タマサートのIメイトと北京の元Iメイトから心からのお見舞いと励ましのメールを貰いありがとうございました。(新井雅夫)

(上 高子)

東日本大震災に対しては、世界中から支援表明がなされています。韓国人の友人に「韓流のスターたちもライブで募金してくれるそうですね。世界中の励ましは有り難いです」と言ったら、「それはこれまで日本が、世界中にしていた支援へのお返しですよ」と返事があり、「情けは人のためならず」ということわざを思い出しました。そして、今回の大震災特集を「私たちはつながっている」というキャッチフレーズに決めました。

(藤原玲子)



無農薬・無化学肥料農業への招待

農業と化学肥料に頼った農業をあらため、自然の力にあふれる農産物を広めたい。水河の大地から生まれた「地力の素〜カナディアンフミンHNC〜」とともに、私たちは安全で地球環境にやさしい食料生産を目指します。

(株)ピイアイシー・バイオ
http://canadian-humic.com
アジアの活動を支援する法人会員です

認定NPO法人

アジアの新しい風

第31号
2011年
(春)

東日本大震災特集

3月11日午後3時前大地震発生。その日のうちに事務局のパソコンは4通の安否確認メールを、中国とタイから受信した。「日本で何か起きたようですが、会員のみなさんは大丈夫ですか」。

翌日からは、「Iメイトからお見舞いのメールが届いて感動した」という知らせが続々と届くようになった。中国ではテレビで放映されたので、「中国研修生を救うために命を失った、宮城県の佐藤充のことを知って、本当に感動しました。日本の方々に、感謝します」というメールや、東京でも品不足があるとIメイトから聞いて、「他の生活必需品はどうでしょう。もし何か役に立てそうところがあれば、遠慮無く声をかけてください!」というメールも。

ちょうど、アジア風新聞春号の編集にとりかかる時期だったので、今号は「東日本大震災特集」にすることに決め、Iメイト会員に「震災関連のメールを転送してほしい」と依頼したところ、10日間に合計20名のIメイト会員から転送メールが届いた。一生懸命に気持ちを伝えるという学生たちのメール文は、どれも捨てたいけれど



〈日本を応援するハノイの大学生達〉

ども、紙面の関係で選択せざるを得ず、「被災地の日本人の態度に感銘を受けた」というメールを中心に選んで、増ページのP5、P6に掲載した。日本人会員にとつて励ましになれば、と願う。貿易大から千羽鶴が買入大の増本先生からは、「日本語クラブの学生たちは、募金しても大した金額にならないので、とみんな



〈Iメイト学生ブイティさん提供〉



〈津波後の火災で焼け野原と化した岩手県山田町市街地「丹波新聞社提供」〉

けたらいいか、みなさんのお知恵を借りたい。地震、津波に引きつづいた放射能の事故は、「対岸の火事」という格言が死語になるような実感を全人類につきつけ、地球が「運命共同体」に乗せた船であることを連想させた。火元である日本は、世界中の支援と励ましに応えるために、復旧、復興にも、よいお手本を示さなければならぬ。

なで千羽鶴を2011羽(11年になんて)折っているの知らせ。この祈りのこもった千羽鶴は、4月15日に来日のIメイト留学生が運んでくれることになった。被災地の子供たちどどのように届けたいか、みなさんのお知恵を借りたい。

交流大学からお見舞いメール

* 清華大学外国語学部日本語科 主任教授 馮 峰 先生
日本の大地震の情報が入って、驚きま紀末の感がいたします。千年一回の災害で、日本にいるアジアの皆様は大丈夫かなと心配しております。長年にわたって、ずっとアジア風の皆様のお世話になりました。誠に感謝の気持ちで胸いっぱいです。でも、大和民族は、どんな苦難にあっても絶対負けずたゆまずにそれを乗り越えられる民族だから、今回も例外なくこの未曾有の試練に耐えられと固く信じております。
中国の学会の同人たちも日本応援活動に動き出ております(中国語の新聞添付)。私たち、一緒に頑張っていこうじやないかと声をかけたのです。では、皆様の活躍と無事をお祈りいたします。

* タマサート大学日本語学部准教授 タサニ・メーターピット先生
タイで起きた津波の災害の際、アジアの新しい風のメンバーの方々から寄付金をいただいたことは、今でも鮮明に覚えています。今回の被災者を助けたいという気持ちで一杯です。
学科及び卒業生は、タイ国外務省を通して寄付させていただきました。ほかに私たちにできることがありますたら、どうぞご遠慮なくお申し付けください。とにかく、日本のみなさんが今回の災害から一刻も早く救われますようお祈り申し上げます。
* 貿易大学日本語学部長 Nguyen Van Hao 先生
ほんとうにたいへんでしたね。大地震が起こってベトナムのテレビに写りました。アジア新しい風の皆様とご家族の皆様大丈夫でしょうか。皆様のご無事になるようにお祈りいたします。

恒例の新春交流会は、2月5日にJICA地球ひろばで、67名の出席者を得て行われました。上事務局長から、「日本は地球の一部であるという自覚がもっと必要である」という緒方貞子JICA理事長の言葉を借りて新年のご挨拶がありました。
タマサート大学訪問旅行の報告が交流コーディネーターの森郁子さんから、貿易大のIメイト交流について一時帰国中の増本純子先生から、5月からタマサートへ赴任する三角友子先生から新任の挨拶がありました。
ピュッフエスタイルのランチを囲んで、親睦タイムのあと、清華大学3年生の10名が、挨拶をしました。うち4名は、藤原玲子理事のインタビュイーに答え、「日本に関して来日前の印象と実際について、予想通りだったこと、予想に反していたこと」のコメントを述べました。
その後、9組のグループに分かれ、「多文化共生〜日本の、アジアのこれから」について話し合いました。まとめ役のみなさんから後日リポートをいただきましたが、目立って多かったコメントは、「マスメディアを通して得ていた情報は、必ずしも正しいとは言えない。実際にこの目で体験することが大切。またアジア風の交流が相互理解に果たす役割は大きい」ということでした。



〈グループディスカッション〉



〈インタビューに答える留学生〉

テーマは多文化共生

2008、2009年、中国からの元留学生で、アジ風の事務局アルバイトだった唐霊慧さん(現在フランス留学中)から事務局へ届いたメール。四川省の大地震の募金に携わった事務局の皆さんへ

地震から五つ目の日です。東京はどうなっているのですか。震度が9.0に確定したと聞いていますが、凄まじい数字です。中国の四川省のときよりもひどいです。その上、津波や原子力発電所の事故、本当に日本はこれからどうなるのか心配です。輪番節電が大変ですね。今の時代では電気がない日々など想像できませんからね。



私が日本にいたときちょうど四川省の大地震で、そのとき日本人の態度が深く印象に残りました。皆さんが寄付をしてくださったり、関心を持ってくださったたり、中国人である私たちが慰めてくださったたり、とても感動でした。そして、日本救援隊が中国でも好評でした。それゆえ、今日の日本の地震に對して、中国の人々も心配しています。私が日本にいたとき、日本人のおおあさ

イメイトは日本、私は中国

私はイメイト俞孟令(ユ・モウレイ)さんと交流を初めて1年半経過しました。その間、私が昨夏にアジ風の清華大 学訪問団に参加し、北京で初対面。その後、俞さんが昨年10月に1年研修で来日。私が今年2月から浙江大学(中国・杭州)に半年の語学留学。現在、お互いが相手の国に滞在中です。



現役時代の中華圏での駐在経験とは異なり、最初の1、2週間は戸惑いの連続でした。2カ月経過した今はすっかり現地に馴染んで、学ぶことの充実感を味わっています。浙江省杭州は西湖をはじめとする風光明媚な環境、歴史・文化の香りに溢れる土地で、多彩で、奥深い、壮大な中国文化を実感できる場所です。またいろいろな方との縁で中国人や当地滞在の日本人との交流もあり、留学生活を楽しんでいます。中でも、アジ風会員の森都子さんのイメイトである周皓昕さん(杭州出身、現在京都大学留学中)のご両親から歓迎を受け、杯を交わしながら現地事情を聞きましました。困れば何でも相談してく

派遣教師の現地報告

東日本大震災ベトナムの反応 増本純子先生

大地震発生翌日十二日は、私が主宰する勉強会の日だった。「先生ご家族は？」心配そうな顔で全員が私を見ている。「大丈夫でした」。拍手歓声が起こった。「イメイトの〇〇さんも大丈夫でした。嬉しいです」。「今日メールします」。相手の顔を思い浮かべて心配している学生に胸が熱くなった。顔が見えるイメイト交流が根付いてきていることを実感した。学部の先生から電話がかかってきた。「外国のニュースがトップに流れることはないのです。大丈夫ですか?」。コーヒー店ではベトナム語で、大学事務室では英語で「家族は大丈夫?」と聞かれた。GAMAN強く分かち合いを忘れずにこの危機を乗り越えようとしている日本人の様子が伝えられているらしく、「日本人は偉いです」と秘書。記事に胸を打たれ募金したと学生。多くの人に声をかけられた。



千羽鶴を折る学生たち

十三日になると日本語クラブのメールのやり取りが急に増えた。ベトナム語が分からない私は、「何?」とクラブ長のマイさんに電話した。彼女の話を聞いて、クラブの行動力、思いの温かさ

(ベトナム・貿易大学派遣教師)

タイでもチャリティーイベントが 盛田真規子先生

期末試験の採点をしていた時、一人の学生から電話があり「日本で震度9の大きい地震があった。津波が心配です。先生のご家族は大丈夫?」とのこと。驚きのあまりとっさには事態が理解できず、すぐに日本人講師室に向かい同僚に知らせると、皆一斉に日本の家族に連絡を取り始めました。



キャンパス内の市場の様子

関東地方に実家がある同僚は家族と連絡がとれるまで時間がかり、とても心配していました。地震発生当日から2日間ぐらい日本へのネットのつながりも悪く、テレビもない私達教員はただただ無事を祈るばかりでした。それからは、先生方や大学関係者はもちろんのこと、全く知らないタイの方々からも日本の心配をさせていただきました。イメイトの学生は交流相手のご家族の心配を、また、ある学生は「今すぐにも飛んで行って、日本のためにボランティアとして参加したい」とまで言うてくれました。

そして、災害後すぐに、タイの有名1000人が参加してのチャリティーイベントがバンコクのサイアム・パラゴンという大型ショッピングセンター前で行なわれ、全国各地の160万もの人々から義援金が集まったそうです。その日準備されたグッズには「日本を助けよう」と書かれたTシャツがあり、それを着た大勢の人々を見たとき、感動しました。このように、タイの人々の温かい心に触れ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。(編集部注 震災後、原稿を差し替えましたが写真は間に合わず元ものを掲載しました。)(タイ・タマサート大学派遣教師)

んが四川地震に寄付しながら、「中国頑張れ」と言っている写真をネットで見ました。それを見て、また今日日本が同じことに遭ったと思うと、涙が零れます。中国のネットに「日本頑張れ」との声があがっていて、日本を応援し、死者を哀悼するというのが多いです。

日本がこの災難において取った姿勢は、私たちを感服させました。避難してもとても秩序よく、慌てることなどないようです。そして多くの人々が、災難に文句を言うのではなく、命が残っていることに感謝しているようです。本当に、日本だけができることです。

先日から電話があつて、「日本人の知り合いは大丈夫ですか?」と心配しているようです。「メールして聞きました。大丈夫そうです」と答えたら安心しました。フランスの授業でも、先生が授業をする前に、日本のことが痛んでいるなどと言いました。世界が日本を見ています。日本は乗り越えられると思います。きつと。絶対に生き延びてください。またパリで会いましょう!!それでは、ご無事で、お元気で。(唐霊慧さん、北京第二外国語大学卒。藤原博子さんの元イメイト)

ださいとの親切な気遣いに心強く思っています。

ただ、先日の日本大地震(中国での呼称)には驚きました。当日夜に大学図書館の人から伝えられたのですが、翌日にやと家族と連絡がとれ一安心しました。私のイメイト俞孟令さんは地震発生時には都内で、当日は横浜市内の寮に戻れず、長時間かけて徒歩で都内にある研修仲間の寮で一晩過ごしたとのこと。俞孟令さんからは、思いがけない経験だったが、発生後の日本人の対応の冷静さに感心したと聞いています。

中国でも、TVのニュースチャンネルは日本大地震に多くの時間を割き、関心の深さがうかがえます。浙江大学には、日本人留学生の発案で義捐金箱も設置されました。同級生からも心配と激励の声をかけてもらっています。この時期に悠長に外地にいていいのかわと、一種の罪悪感も伴っています。外から日本を客観視できる機会でもあり、また外地・中国の人たちの感じ方、反応を直に感じとれる機会であると自分を納得させています。被害を受けた東北の復興と、放射能の危険回避が1日も早いことを願っています。(イメイト会員 奥山正昭)

日本震災、悲しい涙&助けたい気持ち 郝文艳さん

清華大学日本語学科4年のかくです。初めての投稿ですが、よろしくお願い致します。

3月11日の午後、地震のニュースを聞いた時、本当に驚きました。津波に飲み込まれた町、おもちやのように海に浮かんでいる自動車、そういう画面を見たとき、私は悲しい涙を流しました。「すぐに相手の安全を知りたくて、メールを送りました」「相手の安全を一刻も早く確認したい」と思って、国際電話もかけて見ましたが、通じませんでした」と2年生の学生から聞きました。



募金活動が行われた学生サービスセンター

日本語学科だけでなく、他の学部の学生も日本のために心配しています。3月23日の募金活動の時は、精一杯周りの人に募金を呼びかける学生の姿に感動し、寄付する人も多かったです。その後、日本の震災や原発事故に関する講座も聞き多くの人が聞きに来ました。「悲しい気持ちだけでは役立てないから、日本の人々を助けてあげたい」と言った学生もいました。

送っていたら、読後感想文コンテンツ用の図書を配った後、「日本はそんなに厳しい状況に陥っているのに、ちゃんと時間通り私たちに図書を送るなど、本当に申し訳ございません。心から感謝しています」と2年生の皆さんは言いました。誠に、アジ風の皆様に、最大の感謝を申し上げます。(中国・清華大学四年生 イメイト交流アルバイト生)

会員紹介

古澤 サヨ子さん

イメイト会員の相談窓口

海外で様々なキャリアを積んだ経験のある女性会員としては際立っている古澤さん。その職種はいろいろで驚く。美容師から始まり、外国化粧品会社の社員。その後、単身、米国に語学留学に挑戦。語学に自信を持った古澤さんは、そこからは独自の道を突き進む。マレーシアで日本人経営の和食レストランの貿易、経理担当。シンガポールではホテルで、日本人担当のゲスト・リレーション・マネジャー(日本企業の現地社長以下幹部社員たちの諸々のお世話係)。海外進出した大手現地法人の社長秘書。進出企業の子会社(町工場クラス)のコーディネーター、後には頼まれて社長。更に中国・無錫で外資系ホテルといった具合。大半は海外で活躍する日本人ビジネスマンと現地人とのコーディネイト役(助っ人) 人生といえる。

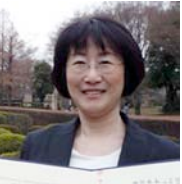


「私が履歴書を書いたのは日本で最初に入社した時の1枚だけ。後は、現地での仕事ぶりを見て、次々にスカウトされたのです」と振り返る。自慢げでなく、スラっとおっしゃる。こんな、たくましい女性キャリアは珍しいのでは?。こんな、経験の持ち主が帰国。4年前、マレーシア時代から古澤さんと親しい知人(創立時からのアジ風会員)に誘われ、4年前、即、入会した。

これまでイメイトは4人(中国3人、タイ1人)。中国のイメイトの女性からは「日本のお母さん」と呼ばれ、大学卒業後、就職してからは、仕事のこと、恋愛、結婚の相談を持ち掛けられる。「自分の娘のように接しています」と真剣な助言を繰り返していらつしやるようだ。

最後に、イメイト会員へのひと言。「皆さん、外国へ行って!すると、偏見、固定観念はなくなりませす。できた1ヶ月位、暮らしてみてもどうでしょう」貴重なアドバイスと私も同感だ。(インタビュアー 編集ボランティア 園木宏志)

派遣教師のごあいさつ 三角友子



タマサート大学に派遣されることになった三角友子(みすみともこ)です。皆さんと学生会員さんとの交流がうまくいくように、コーディネーターとして精一杯お手伝いさせていただきます。私自身もタマサートの学生との交流を楽しみにしております。「アジアの新しい風」は国内在住の会員さんが多いと思いますが、私は持前の行動力を生かして、タイにいる日系人や駐在員にも「アジアの新しい風」のすばらしさを伝え、ぜひ会員となつていただけるよう努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

助成金が下りました。

① パンパシフィックファンデーションより、15万円の助成金。タマサート大学対象に「サルと人と森」の読後感想文コンテンツを実施します。イメイト会員のみなさんのご協力で、有意義なコンテンツにしたいと願っています。② 大阪コミュニティユニオン財団より10万円の助成金。清華大学対象に「日本文学の読後感想文コンテンツ」を実施します。清華大学創立100周年を記念して、第5回コンテンツを素晴らしいものにしたいと願っています。イメイト会員のみなさんのご協力をお願いします。(今年度の課題図書の一冊)



母さん死ぬな